

平成28年 第2回神戸市役所本庁舎のあり方に関する懇話会

日時：平成28年12月21日

○事務局 第2回神戸市役所本庁舎のあり方に関する懇話会を、開催させていただきます。初めに第1回の懇話会に御出席できなかった委員と、交代された委員の方を御紹介させていただきます。（委員紹介）

それでは、以降の議事進行を岡田会長にお願いいたしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○岡田会長 第1回懇話会では、それぞれの委員の方々のお立場からお考えを御披露いただき、さまざまな課題やあり方が出ました。

今回は、他都市の事例についてご説明いただき、我々が取り組もうとしている本庁舎の課題等について整理してまいりたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局より説明をお願いします。

○事務局 市役所とにぎわい施設の合築事例を御紹介させていただきます。全部で5都市ございます。

まずは新潟県の長岡市です。特徴的なのは、集客を目的とした建物になっています。駅前であり、便利な立地に建っており、延べ床面積3万5,500㎡の半分以上が、市民交流スペースとなっています。市民との協働の拠点となっています。

まちなか型市役所ということで、本庁組織は、市内7カ所にこれまで分散しておりましたが、このたび本庁機能を、駅前のメイン施設「アオーレ長岡」を核として、まちなか数カ所に集約配置しています。ナカドマと言われる全天候型の中庭と、大型のアリーナ、こちらは最大収容人数が約5,000人です。これらが一体的に利用可能な施設になっています。コンサートやプロバスケットボールの公式戦試合も行われ、人の集まるイベントが数多く実施されています。

ナカドマや、アリーナのほかに、市民交流ホール、シアターなどの施設もあり、市民へ開放されています。

料金も、市民が利用しやすい設定になっており、ナカドマや市民交流ホールについては、非営利の市民交流目的であれば、無料で利用できます。

議場は、1階にあり、ナカドマからガラス張りで中が見えるようになっています。天井には、地場産の板を使い、長岡の有名な花火をイメージした装飾が施されています。

長岡市では、ナカドマ、アリーナ、市民交流ホール、シアター、市民協働センター、オープンテラスの市民交流スペースがにぎわい施設として機能しています。

2つ目、東京都の豊島区です。再開発事業により、マンションとの合築で建てられています。3階から9階が行政フロアです。1階には、総合案内と区民交流ゾーンとして豊島センタースクウェアが整備され、そのほかにドラッグストア、テレビスタジオ、コンビニ、カフェといった店舗が入居しています。

1階は、あらゆる方向から来庁が可能となるように、入り口が4カ所設けられています。また、2階には内科、歯科、レストラン、コンビニ等が入居しており、来年の4月からは、保育所も入居予定と聞いています。

1階の豊島センタースクウェアの大きさは450㎡ほどで、区の行事や展示、発表会など、多様な区民活動に利用されています。

また、災害発生時には、被災情報の提供や生活相談の場として、活用する予定となっています。

利用は、区主催、または共催しているものに限定されており、ほぼ全日が利用されている状況です。また、建具を開放することにより、南側の広場と一体利用も可能となっています。

10階には区民が集う憩いの場、「豊島の森」が整備されています。かつての豊島区の植生や生態などを再現し、自然の仕組みを学びながら憩える場所として整備されています。

荒川水系の生き物を観察できる水槽や、ビオトープも整備されており、外階段で、8階、6階、4階のグリーンテラスに連絡しています。自然環境を見学できるルートも設けられています。

「豊島の森」は、土日も開放しており、区民の憩いの場になっています。

豊島区では、豊島センタースクウェアや豊島の森、それからレストランやカフェの店舗、病院、薬局がにぎわい施設として機能しています。

3つ目、茨城県の土浦市です。もともとのテナントビルをリノベーションしたものです。

地下1階がフードマーケット、1階から4階が市役所、5階から6階が県の生涯学習センターです。

地下1階から地上2階にかけては、飲食店などの店舗が入居しています。地上1階および2階の市民エリアには、市民ラウンジと位置づけられた飲食も可能なスペースがあります。1階および2階の市民エリアは、隣接する駐車場への連絡通路にもなっているため、朝の8時から21時まで開放されています。

市役所建物の北側には、移転に合わせて設置した大屋根があり、その下が広場になっています。建物1階部分と一体的な利用も可能です。この場所はイベントにも活用しながら、防災拠点としての機能も備えています。

土浦市では、市民ラウンジ、フードマーケット、各種店舗、それから大屋根の広場がにぎわい施設として機能しています。

4つ目、栃木県栃木市です。もともと百貨店が入っていた建物をリノベーションして、市役所として活用しています。

1階には、新たに東武百貨店を誘致し、食料品などを販売するフロアになっています。2階から5階が市役所です。

1階には、市民スペースを整備し、市民が立ち寄れる場所をつくっています。こちらのスペースは、休憩、休息、憩いの場、展示及びイベントスペースとして、使われています。

栃木市では、1階の東武百貨店、それから市民スペースがにぎわい施設として機能しています。

5つ目、静岡県浜松市です。もともとの市役所の建物の中に、本庁機能と区役所機能を共存させている建物になっています。

建物の1階、2階の一部に区役所エリアがあります。
本館に市民ロビー、地産製品の展示や販売を行うチャレンジショップ、ATM、北館にコンビニがにぎわい施設として機能しています。

長岡市は、にぎわい施設を中心に整備されていますが、他の都市につきましては、行政機能が主な施設となっています。

引き続き、本庁舎周辺の地区の課題を説明します。
2号館3号館周辺地区の課題や、求められていること、それから課題解決に向けた方向性、そのために求められる機能について、三ノ宮周辺地区の再整備基本構想を踏まえて、事務局で整理しました。これを1つの考え方として、検討の材料にしていただけたらと思います。

課題としては、

- ・ 地区内及び周辺地域への回遊性向上が求められている。
- ・ 徒歩圏内の魅力的なエリアへの回遊性が低い。
- ・ 選ばれるために魅力、活力の創造が求められている。
- ・ 商業や業務、文化、交流施設の集積と更新。

- ・日常的なにぎわい空間や、イベント等ができる広場の不足、町なかに休憩スペースが無い。

- ・シンボル軸としてのフラワーロードの魅力が弱いなどの課題があります。

また、それぞれの課題に対して、解決に向けた方向性は、次のように考えられます。

地区内及び周辺地域への回遊性向上、徒歩圏内の魅力的なエリアへの魅力的な回遊性が低い、こういった課題については、回遊性を高める歩行者ネットワークの構築が示されています。

- ・統一した町並みや、連続する低層部のなにぎわいなど、歩く楽しさを誘導する。

- ・歩道拡幅、緑や花壇などの環境整備により、安全で快適な歩行者環境の創出を図るなどの方向性です。

それから、選ばれるための魅力、活力の創造については、神戸を訪れ、長時間滞在する魅力を高めるために、

- ・大規模建物の低層部へのなにぎわい施設の誘導。

- ・個性あふれる連続する店舗。

- ・路面型回遊型店舗の誘導などです。

商業や業務、文化、交流施設の集積と更新については、神戸に暮らし、働く魅力を高めるために、

- ・起業家の初期の活動を支える拠点。

- ・企業や大学との連携、交流拠点。

- ・文化、交流施設や生涯学習施設の更新。

- ・イベントの場の提供、魅力的なイベントの開催などです。

日常的なにぎわい空間や、イベント等ができる広場の不足、町なかに休憩スペースがないということについては、市民や来街者が自由に集い、憩える滞留空間の創出のために、

- ・休憩できる快適な緑陰空間の整備。

- ・町なかの滞在空間の創出。
- ・イベントの場の提供などです。

シンボル軸としてのフラワーロードの魅力が弱いということにつきましては、神戸らしい緑と花のプロムナードの形成のために、

- ・緑陰空間や休憩場所と一体的に、緑と花の空間整備を行うことが示されています。

これらの課題解決に向けて、事務局では、次のような機能が必要ではと考えております。

三ノ宮中心部から、ウォーターフロント、旧居留地への人の流れを創出、神戸大丸通路のような回廊型の歩行者通路整備、駅方向から東遊園地へとつながる緑のプロムナード、緑のプロムナード内にたまり空間や、イベントスペースの設置。

交流、発信拠点として屋根つきのイベントスペース、市民やクリエイター、来街者の交流、発信、活動拠点となる多目的スペース、展示やワークショップ、会議が可能な交流スペース、サンクンガーデンなどです。

来街者滞留として、三ノ宮に比較的少ない、客室規模が大きく、ハイグレードタイプのホテル、都市型リゾートホテル。神戸の文化、ライフスタイルが見つかる拠点として、神戸セレクトマーケット、ショールームなど。

生活提案型商業施設として、沿道のにぎわい形成や回遊性を促進する低層型の、商業施設への神戸ファッション文化や食の発信など。

文化芸術発信拠点として、劇場、音楽堂など。

産官学連携ゾーンとして、神戸医療産業都市の駅前窓口、大学の駅前サテライト校舎、社会人向けの公開講座等を行う、エクステンションセンター。

起業家の育成拠点として、クリエイターや起業家の活動拠点となる共有型ワークプレイスの整備、オフィス支援。

ビジネス支援として、職場近接のクリニック、保育所など。

行政機能として、市役所などの機能が考えられます。

以上で、2号館、3号館周辺地区の課題等についての説明を終わりますが、違う課題や視点、方向性がないかなどについて御意見をいただきたいと考えています。

○岡田会長　他都市の状況、求められる機能等の説明がありましたが、今回の建て替えは、神戸の街全体の起爆剤となるようなにぎわいの場所にすることを念頭において、どのようにすれば本庁舎を中心として、にぎわいをもたらすことができるのかを、委員の皆さま方からご意見を頂戴したいと思っています。

○長濱委員

長岡市と豊島区は、にぎわい施設を複合していった事例のすごく有名な事例でいいかなと思います。5つ事例を見ると、やはり複合化というのがキーワードだと思います。何と複合化していくというのは、今回の本庁舎にも求められることかなと思います。

共通しているのが、いわゆる日常的なにぎわい。要するに市民活動です。それをサポートするにぎわい施設と複合化しているのはやはり特徴的で、非日常的なある意味、一過性のにぎわいではなくて、継続的なにぎわいということをやっているかなと思います。

長岡市は、プログラムがやはり参考になると思います。いろんなものを積んでいき、ふだんから市民が来ると、そこで防災意識であるとか、行政への何をやっているかという関心を生んでいくということで、すごくやはりデザインもいいし、うまくできてるので、すごくプログラムは参考になるかなと思います。

豊島区は、グリーン大通りを通して、南池袋公園とネットワークしている。パークコネクトと言い、オープンスペースを結んでいく中心地になっている。三ノ宮クロススクエア、1号館、2号館プラス3号館、東遊園地を一体的にネットワークしていくときの参考事例となると思います。

○岡田会長　どうも、ありがとうございます。中右委員どうぞ。

○中右委員　求められている機能が、とても幅広くて、全てのものを収容するのは

難しいと思う。求められる機能全てつめこむのではなくて、何でもできる場所、何でもできる箱をつくるのが大事かと思います。

その中で、多目的スペースだから、何でもできるということではなく、その多目的スペースも含めて周辺を一体的にタウンマネジメントするような主体を、市がやるのか、市がどこかのNPOに任せるのか、いろんな形があると思うが、考える必要があると思います。

少し前に東遊園地でやっていた、アーバンピクニックの活動、ああいうものもヒントになると思います。

○岡田会長 福岡委員どうぞ。

○福岡委員 資料2を拝見して、我々もいろんな専門分野から来ていて、いろんな意見を出し、アイデアをのせるというのが役割だと思うが、今のところウィッシュリストになっている。具体的に見ていくと、例えば文化、芸術発信としては、国際会館もあり、芸術のホールとして本当にここで成り立つのか、何が本当に機能として、ここにふさわしいのか検討していただけるのかなと思いました。

この回廊型の歩行者通路整備は、大丸の前のことを言っていると思うが、何か新しく、何かを付け加えたり、作っていくことを前提に議論が進んでいるが、この周りを見回していきますと、既に神戸は抱えてる都市のストックというか、資源みたいなものはたくさんあると思う。既存のそういったストックをどうやって活性化させるか。例えば、誰も使っていない空気をどういうふうに生き生きさせるかとか。

歩行者空間も、拡張という話もあると思いますが、今ある物も生かしながらどういうふうに新しい物を入れていくかって考えると、これがどういうふうにこの街に効いてくるかっていうところの視点が、多分議論されるべきなのかなというふうに思っています。

○岡田会長 これが、おっしゃるところの。

○福岡委員 起爆剤というか。ここはどういうふうに街に効いてくるかという視点

があり、長濱さんがおっしゃったみたいに、それがネットワークで幾つか核があると思うんです。クロススクウェア、東遊園地、いろいろと思うんですけれども、その視点で見ていくと、どういうふうにこれが街に効いていくか、という議論も1つあるかなと思っています。

○岡田会長　　今、お2人の委員の方から共通しているのは、機能の見直しといたしましょうか、集約化といたしましょうか、この建物だからこそできること、それがほかに波及するというようなことを、念頭においてお話いただいたのではないかなと思っていますので、それが、ほかのエリアとマッチングして、より高めていけばというようなことでよろしいでしょうか。

○長濱委員　　そうですね。長岡は地方都市なので、いろんなプログラムを積もうとするパターンです。それは当然、有効だと思うんですが、豊島区の場合は、そんなに自分でいろんなものを抱えずに、福岡先生が言ったように、周りにストックがあるわけですよね。それは三ノ宮とロケーションがやはり似ているので、ここがターミナルになるみたいな感じというか、ここに立ち寄ってほかのどこに行くとかですね。いわゆる、ここだけで集中して、人を集めるのではなくて、周りに例えば東遊園地のほうに送り込むであるとか、居留地のほうに送り込むような、ある種の駅みたいなことがあって、先ほど劇場の話がありましたけど、大きい箱ではなくて小さい市民が使いやすい箱、劇場みたいなものがあって、いろんな人が雑多に、ターミナル的にほかのエリアを活性化するような役割の施設のポジショニングじゃないかなと思います。

○岡田会長　　福岡委員、いかがですか。

○福岡委員　　そうですね。市民の活動の場っていうのは、いろんな場所で用意されてるのは事例からわかったんですけども、市民と、それから企業や大学、それからそこで生まれる新しい、創造というか、創造の場みたいな、選ばれる都市になるためには、そういういろんな層の人たちが、何か新しいものに触れるだけでも、交流するだけでもいいと思うんですけども、そういった化学反応みたいなのを起こすための

仕組みってというのは、今、大阪で野村さんがやられてますけども、神戸の場合、大阪と違ってどういう可能性があるのかとか、その辺を何かご意見ありませんか。

○岡田会長　野村委員、いかがでしょうか。

○野村委員　神戸を大阪から見ると、すごくコンテンツと言いますか、いろんなことをされていて、いっぱいあると思うんです。もちろん大学もそうですし、医療、産業にしてもそうですが、いろんなことがあるのだけども、なかなか聞こえてこないというか、要するに社会に対して、もっと言うと日本全体に対してなかなか出ていかないということが、何となく感じている。交流、発信拠点では、福岡先生が言われたような、市民と専門家が交わる交流機能が要ると思うんですが、一方で発信機能では従来型メディアはやはり東京に一極集中してることもあって、なかなか地方都市が一般のメディアにのりにくいため、発信機能がもう少しここにあればいいかなと思う。今の時代で言うと、インターネット、SNSを通じた、だけどそこに来たら発表できる、企業の決算にしても、大学の研究成果にしても学生の活動にしても、そこへ来れば、最低限のスタジオ機能、設備があり情報発信できるとか、あるいは記者発表がそこでできるような発信機能が、その交流拠点とセットになっていると、さらにいいのではないかなと思うんです。

○岡田会長　ありがとうございます。関西では大阪が発信機能が一番高いので、神戸市の幾つかの大学が定期的に大阪駅北側のナレッジキャピタルで情報発信をしています。それが少しずつ神戸の大学の意味、意義を高めていると思います。1つ機能としては必要かなというふうに理解しているところでございます。

柏木委員、どうぞ。

○柏木委員　課題の1段目の回遊性向上と、一番下のフラワーロードの魅力が弱いというところは、周辺との連動性をどうしていくかということでもあります。真ん中の3つは、その中でどのような機能をもたせるかというふうに、大きく分けられるのではないかなというふうに思います。さらには、例えば選ばれるための魅力、活力の創造

と書かれていますけど、誰に選ばれたいのか、誰に活用してもらおうのかっていうところが、明確になってくると、もう少し絞り込まれてくると思います。さらには、市中心部に不足する魅力などの、この課題解決のためにこの場所で何ができそうなのか、また、機能の部分ではありますけれども、行政サービスとして、中心部になければならない基本的なものは何なのかということも、あわせて考えたときに、限られたスペースの中に、一体何をもちこたせなければいけないのかというのが、1つ目の感想です。

先ほどのお話から、発信機能としての拠点づくりだというようなことと、もう1つは、ターミナルとしての拠点になったらいいなという話がありました。このターミナルに関しては、同時進行で駅前の周辺開発もされていて、駅には当然、ターミナルとしての機能が必要になってくると思います。観光案内も含め、荷物、宅配などのサービスだとか、さまざまなターミナルとしての拠点が求められると思いますが、そこと、どのような役割分担を果たすのかというようなことも、あわせて考えていかなければならないのかなと思います。駅周辺開発とのすみ分けと、よりよい相乗効果を図るための役割は、何を担うべきなのかというところの議論が必要なのかなと思いました。

○岡田会長　ありがとうございます。新しい質問を頂戴したのかなと思います。山下委員、どうぞ。

○山下委員　神戸は夜景の街で、日本三大夜景に先日、選ばれました。神戸で夜に一番にぎわってるスポットは神戸市役所の1号館です。1号館に観光客の方が、大挙して夜景を見に上がっています。しかも、24階のレストランが夜10時まで開いている。これは神戸の1つの魅力とっていますが、逆に言えば、町なかで夜景を楽しむポイントが、ほとんど無いのが現状だと思います。

きょうの話を聞いていて、この議論は昼の顔を議論しているのか、夜の顔を議論しているのか、ちょっとわかりにくいんです。これは一体的に議論すべきではないかもしれない。役所の機能はお昼の機能だから、昼の顔だけ考えたらいいのだという御意見もあるかもしれないが、駅から500m内にある市役所が実は夜景観光の窓口に

なっている事実があります。

これをどうつないでいくのかも、1つ議論していただけると、東遊園地も含めて新しい視点が生まれてくるのではないかと、新たな魅力の創出につながるのではないかと考えております。

住居機能に関しては、余り中心地に集約してしまうと、郊外の空洞化が問題になってくるため、マンションは考えてほしくないなというのが、私の意見でございます。

○岡田会長 南部委員、どうぞ。

○南部委員 質問も含めてですが、方向性の上から2段目の神戸を訪れ長時間滞在する魅力を高めるは、外から来る方々にどう魅力的に思ってもらって、長くステイしてもらって、できれば泊ってもらって、できればたくさんお金を落としてもらおう、そういう観点かなと。3段目の神戸に暮らし、働く魅力を高めるは、神戸市民がイメージされていると思いますが、違いますか。

○事務局 そういうイメージです。

○南部委員 とすると、ちょっと順番が違う。主役は神戸市民なので、市民の方が活動の場として、あるいは憩いの場として、あるいは学ぶ場として、情報収集の場として、産官学含めて、そこで長くステイし、かつ明日のエネルギーをもらえるようなところにするのが2番目に来て、その下に3番目として、神戸市の人がそんなに楽しそうに、かつ学べて、エネルギーをもらっているところだったら、私らも行きたいわという形で、いわゆる拡大をしていく、展開をしていくっていうのが、順番だろうと思いました。

駅周辺の整備がどの様にされるのかわからないが、整合性をもたせながら例えば、テーマを決めていくとおもしろいのではと思います。

人間誰しも、興味があることは健康で、例えば健康をテーマに市民の方々や外から来られる方々に、ワンストップで情報を発信するような機能も含め、あるいは学びあう機能も含め、そういうことを持たせていくことも1つ、大きなテーマにしていくとお

もしろいのかなと思いました。

藤沢のスマートシティや東京の二子玉川では、ツタヤさんが本屋と家電と何かいろんな機能を持たしている。例えば、ジュンク堂さんが、何かうまい機能を発信していただくとうれしいかなと思ったりしますが、これも先ほどの駅周辺の機能との整合性があると思います。

先日、大阪市長のお話を聞く機会があり、その中で「大阪市は変わりますよ」、「駅の近くに4.5haの緑地つくるんや」、「緑の回りって付加価値高いんですよ」、「緑を整備します」と話されていたのを聞いて、三ノ宮駅前がどのように変わるか分からないが、駅に降り立って南の方を見たときに、「あそこおもしろそうやな」と思わせるような緑地の仕掛け、例えばロンドンのハンプトンコートにある、ヘンリー8世がつくった宮殿の緑の迷路のような仕掛けが緑であるとおもしろいと思いました。

○岡田会長　　今お話いただきまして、共通しているのがそれぞれ機能の明確化ということで、そちらの方向に少しずつ収斂し始めたのかなと思います。軒原委員、どうぞ。

○軒原委員　　先日、市役所庁舎について少しご意見を伺いましたので、お話させていただきます。本庁舎では1号館24階で外国人観光客が登録をしてWi-Fiが使えます。人々が集まる場所に、今かなり普及しているので、庁舎の中ももう少しWi-Fiの機能が広く使えるような取り組みをしてほしいという声を聞きましたので、広げていただきたいと思います。

それと、1号館2階の展示のスペースに行ってみて、初めて展示内容を知ることがあり、周知されてなくてもったいないと言われていました。先ほどからもいろんな展示、多目的スペースとか、ワークショップとか御意見が出ておりますが、使い方とか、工夫をしていければいいなと思います。

神戸の1番の特徴、魅力はやはり国際性かなと思います。世界のどんな方も来て

いただいて、言葉にしてもいろんな面で、バリアがないといいますか、そういった庁舎に、また外国人だけではなく、障害をお持ちの方も含めて、全ての方が機能的に行動できるような、そういった庁舎を目指していければいいなというふうに思います。

○岡田会長　　1号館の展示が周知されていないことは、情報発信をまだまだ行う余地があると理解しました。

神戸の魅力、とりわけ数少ないイスラム寺院が神戸にあります。イスラムの方々が来られても、十分に対応できると思いますので、併せて情報発信をお願いしたいと思います。

南出委員、どうぞ。

○南出委員　　神戸市の市民のためにするのか、つくるものなのか、または、兵庫県内から遊びに行きたいと思われるようまちの魅力を磨いていくのか、それとも他府県から泊まりがけでも神戸に来たいと。その3つがあるかと思います。

ライブハウスを運営していて、いつも気にしているのが、まず東京の有名なアーティストを呼ぶこと。そのアーティストが立っているステージに立ちたいと思う若者、兵庫県内の若者を育てること。そして、地域の人たち、例えば大学生の軽音楽部のレンタル、地域のバーの周年イベント、楽器屋さんの発表会の場など、3つをバランスを取りながら、ひと月のスケジュールをデザインしていくというテーマでやっています。

本庁舎をどう変えていくのかも、神戸市民の方にとっての魅力のある部分であってほしいし、兵庫県内の方が1日遊びに来る場所、さらに、日本全国、世界各国から来ても落ち着ける、長いこと滞在したいと思える場所。

何か難しいようできて、その3つがすごく絡み合うような気はしています。

日常的なのか、非日常的なのか、ライブハウスというのは音も大きくて照明もがんがんで、非日常的な場所ではありますが、やはりそこに魅力を、だからこその魅力がある部分もあります。お酒を飲みに来てほしいなという日常的な場所でもありた

いとか、相反すること、音楽、ライブハウスの中で、それでも同居させたいなと思っていますが、そういうところに人が集まるには、どうしたらいいのかみたいなことは、まだ答えは出てないんですけど、そういうのに挑戦をしていけたらいいなと思いました。

○岡田会長　魅力づくりでは日常的な継続性、それがとても大切なのかなと思いました。あそこの街おもしろい、あの庁舎おもしろと思われ続ければ、そのときたまにイベントをすれば、日常的なにぎわいがそこから発信できるのかなと感じました。大谷委員、どうぞ。

○大谷委員　誰を対象とするかは、もちろん全市民であると思うが、神戸に今住んでいる人たちだけではなく、将来神戸に住みたいと思う人たちを、どのように神戸に来てもらうか、そのためには交流人口を作っていくこと。それから、一定の期間滞在すること。例えばうちでやっている仕事でしたら、「国内ダンス留学@神戸」というのをやっていて、8カ月間滞在して勉強する。みんな全国から来ますから、どこか借りて住む。卒業しても何人かは残って、定住していく。

交流人口、それから関係人口、定住人口をふやしていく。これは、神戸だけでなく日本の多くの都市が少子高齢化という問題を抱えている中で、若い人たちがまず住みたいと思う、来てくれるというまちにすることを、まずターゲットにしたいと思いました。

絞り込まずに考えてみたのですが、どういうフェーズをもっていたらいいのかっていうときに、まず文化。文化の中身についてはいろいろ議論はあるかと思いますが、スタジオっていうイメージがあります。これは舞台芸術だったらダンスなり、演劇なりを作っていく。美術なら作品を作っていく、あるいは料理も入れてもいいかも、料理教室があるような。そういうような文化。

それから、教育と情報。これは、子供から学生、社会人、高齢者までが多彩な学習ができるような機能を持った場。例えば図書館というのも、その1つとしてあっても

いいかなと思います。

それから、サテライト、大学のサテライトが庁舎内にあってもいいのではないか。

それから、まちづくりに関する情報が入手できるような、あるいは交換できるようなまちづくり情報プラザのようなものという教育情報。

それから、福祉と健康っていうことです。健康促進や心身がリフレッシュできるような機能をもっている場所。例えば生涯学習センターがあったり、ちょっとトレーニングができるようなトレーニングルームがあったりとか、そういう健康プラザ的な要素をもっている。

あるいはシニアが交流できるような場所。囲碁とか将棋とかが打てたり、俳句をひねったりとか、そういう場所があってもいいのではないか。

あるいは、子育て交流センター。お母さん、お父さんが、子育て、育児に関する問題、悩みとかを共有し、その解決ができるような場所があったらいいのではないか。

それから、広く社会的包摂という意味で、社会的な弱者の人たちが、その問題の解決に向けて集えるような場所。そこに、アートの機能、つなぐものとしてアートの機能が発揮されるといいんじゃないかなというふうに思いました。

回遊性では、K I I T Oをぜひ、入れてほしい。市役所からウォーターフロントに行くところにK I I T Oがある。アーティスト・イン・レジデンスの場所として、K I I T Oの空いている場所を簡易宿泊場のようにして、長期滞在しながら作品をつくれるというふうな、K I I T Oの活用の仕方っていうのも考えました。

それから、劇場に関しては、神戸文化ホールが大規模なメンテナンスの時期を迎えています。そのときに、建てかえるのか、メンテナンスするのか、例えば建てかえるのならこの周辺にもってくるのも、ありかなと思いました。

○岡田会長　　大山委員、どうぞ。

○大山委員　　ターゲットが一体誰なのか。市役所なので市民のためにあるべきだというふうに思います。

どのような機能を持たすべきなのかは、三ノ宮再開発全体の中での機能、役割の議論が必要で、この庁舎だけでの話ではないと思っています。ほかの情報をいろいろ共有したうえでないと建設的な議論ができないのではないかと前回から思っていました。

機能面の話ではないが、市民のために庁舎とか市役所の機能はあるべきだと思っている。なかなかそれが使いづらいものになっていると思っています。

例えば何かイベントをしようとしても、いろんな申請書を書かないといけなかったり、会議室を借りようとしても、空きがいつなのかも分からないとか、ちょっとした面倒くささってというのが、積もりに積もって、何かしようとする気を失せさせている気がしています。やりたいと思ったときに、すぐ何かができるようにするためにソフト的な施策が要るのではないのかなと思っています。

最近、ましになってきているが、僕が起業した7年前は、シェアオフィスは街になくて、行政のシェアオフィスに応募しようと思ったが、余りにも手続が面倒くさくて諦めてしまった記憶があります。ちょっとしたハードルが、みんなのやる気をそいでいるみたいなところを、僕は感じている部分があるので、そういうところはソフト面で、カバーしてあげるような、この庁舎だけじゃなくて、まちの公共施設だったり、公共物っていうのをみんながシェアして、いろんなことに取り組めるような仕掛けっていうのを、考えていければなと思っています。

○岡田会長　品田委員、どうぞ。

○品田委員　今、行政の話がでましたので、先走りし過ぎなのかもしれないが、今の2号館は5階建、地震の前は8階建だった。建物の大きさには限界があると思います。そうすると、今入っている行政機能をどこまで残して、にぎわいスペースをどれくらいのものをつくるか絞り込まないといけないが、余りしょぼいのはいやですね。市民の皆さんが行政に来られるときに対応する窓口と、比較的来られない窓口とかがあると思います。駅前再開発に入っている中央区役所は市民が1番来られる所です。

そうすると行政の再配置みたいなものも、あり得るのかなとは思いますが。前回申し上げましたが、一部の機能は外に出して民間の床を借りていただいて、ここの新しい建物では集約的に、新しい事業を展開するっていうようなことも、ある程度は考えていかなければと思います。

それからあと、誰のためにと、神戸らしさがキーワードになると思います。神戸らしさは、僕が一番最初に思いつくのは、もちろん国際性です。これは売りですから大事にしていかないといけないが、次の展開があると思います。今、医療産業都市、まさに健康です。外国からも医療ツーリズム来ているし、国内の方からも賛成が得られるところだと思います。それで、その次もまた、あるのではないかと。例えば私、神戸市とほかのところにも関係してるんですが、例えばバーチャルリアリティとか、VR ARなんていうのがあり、それを使うといろいろな観光地へ行って、その時代になりきった観光地の見方ができます。神戸市でも既に、そういうものがいっぱい開発されているようなので、例えば若者が情報発信するときもSNSとか使って、どんどん新しいことができると思うので、そういう新しい技術とか新しい若者向けの機能を持った発信であれば、多分大阪と差別化できるのではないかと。神戸らしさっていうときに、やはり大阪とどうすみ分けるかというのは、死活的な問題だと思うので、その辺をちょっと健康であるとか、バーチャルリアリティとか、あるいはそれを使ったベンチャーに支援とかが少しキーワードになってくるんじゃないかと思いました。

○岡田会長　ありがとうございました。先ほど大山委員がおっしゃった三ノ宮駅周辺での再開発の中で、この市庁舎をどう考えるか、ほかの情報も仕入れながらということは、品川委員がおっしゃったようなことにもつながっていくと思います。玉突きのように市役所の機能は、他に出て行ってしまうこともあるかもしれません。

鈴木委員、どうぞ。

○鈴木委員　神戸市役所を市民が使う、それから外から来られた方が使うとなると、三ノ宮駅の周辺がどんなふうに変わっていくのか、この市役所の未来が、今、別々の

観点で議論されているが、その両方を議論できる懇話会があればいいんじゃないのかなと思うんですが、いかがなものでしょうか。

神戸は、新神戸で人の流れが東西に流れてしまうので、外国の方は広島から神戸に来て神戸肉食べて、宿泊は京都とか、東に行くので、全くこちらには出てこない。また、神戸空港の人も全く三ノ宮の中には立ち入ってこないってことなので、魅力としては発信しても、足が向かないのかなって思うんです。そこが住みやすいところなのかなと私は思ってるんですが、やはり人を寄せていかないと、なかなか経済もうまくいかないで、せっかくだったら三ノ宮駅から新神戸駅、それからウォーターフロント、それからポートアイランド、空港というふうに市役所の建てかえだけでなく、何かもう少し大きな全体を議論する協議委員会があってもいいのではないかなって思います。

赤ちゃんからお年寄りまでが、集まって集えたら、車ではなくて乗り物を有効活用して、集まっていったらいい建物になるのかなと思います。

○岡田会長 岸本局長、いかがですか。

○岸本局長 都心全体の問題と、それから特にその中でも、三ノ宮駅周辺の再整備の問題と、この市役所の問題とありまして、本来でしたら全体像の中でこの位置がどういう位置づけで、どうなるかについては、委員の皆さん方からも、それがある程度はっきりしないと、議論もさらに深めることは難しいのではないかという御指摘、そのとおりだと思うんです。ただ、都心全体そのものも今、走りながら考えているようなところなんです。一方では、庁舎は2号館が築60年、3号館が築50年になっており、建てかえを考える時期にきています。

新神戸から神戸空港までの縦軸の中にある庁舎ですので、単純に庁舎だけを建てかえるのではなく、10年後20年後30年後も見据えた形で、どういった建物を、あるいはどういった機能を庁舎にもたせるのがいいのかという思いです。庁舎という建物の建てかえでありますけども、このゾーン、このウォーターフロントまで続く、南

のK I I T Oもありますし、東遊園地もあるようなゾーンの中での、公共空間をどう
いうふうに生かしていくかということで、いろんな御意見をいただいておりますので、
我々としても庁舎を考えるにあたって、活かしていければなという、そういう思いで
ございます。

○岡田会長 ありがとうございました。

○中右委員 建てかえということで、今、どういう機能を入れるかというところを
考えているんですが、これから建てかえるに当たり、容積率など数値的なところは、
押えられているのでしょうか。行政機能の再配置ということで、駅前に便利な機能を
移すこともあると思うので、実際、今の場所で必要な床面積、それにこれから建てか
えで積める床面積というのを算出して、もし、容積が余るようでしたら、またそれを
どこかに移転するとか。そういう空中権の移転等々も含めれば、金銭的なところも浮
いてくるのもあるかと思うので、数値的なところも平行して押えていったほうがいい
のではないかなと思いました。

○岡田会長 いかがでしょう。八木部長。

○八木部長 今の現状だけ申し上げます。1号館2号館あわせまして、敷地面積が
9,500㎡でございます。現状の容積率が、730%でございますので、9,500
0×730%ということになってございます。そこから1号館の、容積対象の面積を
引きますと、2号館、計算上でいくと2万1,750㎡程度にしか、今ならないとい
う状況です。今、中右委員おっしゃいましたように、容積移転であるとか、そのほか
今後、いろいろな手法使いながら、いかにこの容積をふやしていけるのかというところ
は、住宅都市局さんと一緒に今、考えているところでございます。

11月18日に、特定都市再生緊急整備地域に指定を受けたところでございますので、
そういった制度も使いながら、工夫して容積についてはふやしていけたらなと、
そんな思いでございます。3号館は今の大きさが精一杯という状況でございます。

○長濱委員 先ほどのターミナルになったらと言ったのは、人のターミナルの意味

です。先ほど、議論の中で出ていた駅前との関係ですけども、駅前は今、「えき〜まち空間」という語り方をされていて、駅とまちをどう一緒にやっていくかという、6つの駅があります。

多分、駅前というのは鉄道と駅という意味だと思うんですけど、この庁舎が、人の駅になったらどうかと思って、言ったのです。駅前でどういうプログラムをなされるのかと、当然、連携していく必要があるが、空間の特性から言うと恐らく場所のスピード感みたいなものが、駅前エリアよりこの市役所2号館っていうのは若干、スローになっていくはずなんです。東遊園地はさらにスローな場所に、ちょっと感覚的で申しわけないですけど、そこがやはり1番ヒントかなと思っていて、市役所は東遊園地と駅の間地点の時間感覚というか、滞在空間で人のターミナルになって、当然そこには市民が比較的メーンターゲットとなっている。駅前というのは来訪者が過ごすような少しスピード感があるような場所、そういう空間特性を上手く生かしながら東遊園地、みなとの森公園、K I I T O、ウォーターフロント、その辺のやはり場所の特性みたいなものを上手く繋げていくのもいいと思っています。

僕は大阪出身なんですけど、大阪は京都、神戸には勝てないんだと、子供のころから思ってるんです。神戸には、見てみたいという、あそこに行ってみたい、住んでみたいというローカルな文化があるということです。要するにいわゆる神戸らしさって、そこにあると思っていて、そういう意味ではやはり、この市役所の跡地っていうのが、平たい言葉ですけどやはり、神戸文化です。例えば公園文化は、神戸発信なんです。もう一回それを発信していくというのは東遊園地なんかが使えるでしょうし、そういう状況をこの建物にもつくと、それを見に来る人がいるということなんです。神戸の人たちが選択してやってる活動をです。それが1番、多分社会ストックにもなるし、観光資産にもなるという場所をつくり得るのがここじゃないかなということ、ちょっと個人的な意見ですけど思っています。

○福岡委員 来訪者に向けての都市のブランディングや、発信力というお話と、そ

れからそこに住む、暮らす人の魅力を高める、市民のための施設じゃないかってお話があったんですけど、この2つは実は、相関関係にあると思っています。神戸のイメージは確かに、皆さんおっしゃるみたいに国際性や開放性や、教育のレベルが高いことや、健康や食や住みやすさ、たくさんあると思うんですけども、やはり住みやすいつてことなのかなと思うんです。住みやすいつてすごく、ほわっとした言い方ですけど、住みやすいということは、公園がどれくらいあるかとか、教育はどうなってるかとか、いろんな基準が多分ありまして、働くのは大阪だけど、神戸に住んでる人はたくさんいます。それと同じく、やはり東京にも、それから日本のいろんなとこに比べれば、やはり神戸のすごく魅力的な住みやすさというものの、どういうものでそれが成り立っているかっていうことを、もう少ししっかり考えるべきかなと思ってまして、私自身もそういうことを興味持って考えています。5年先、10年20年先の神戸はどこに行くのかみたいなことを考えて、やはり現実的には神戸に移住をしていただいて、先ほど大谷委員はおっしゃいましたけれども、交流人口ふやして、神戸に住み続ける、若者が魅力を感じ続けるという、都市間競争が実は目の見えないところであるわけです。

そこでやはり重要なのは、神戸の魅力つていうものを理解して、住みやすさつてものが何かってことを、もう一回きちんと整理することかなと思ってます。

そこで多分、重要になってくるのが、私の友人が「神戸移住計画」をやっています。神戸に少しお試し期間で来てみて、シェアオフィスで働いて、何回か繰り返してるうちに引っ越す、そういうパターンが多いらしいです。一発で決めて来るつていうのはなかなかないらしい。この2号館建てかえの場所でも、そういった神戸での暮らしやすさや、神戸に住むつていうことが何か、市民によって表現されてる場所であるべきだし、それが逆にプロモーションに繋がるつていうことなのかなと思ってるんです。

ここの部分で、何か神戸のプロモーションするときに、神戸タワーがあるよとか、夜景がきれいだよとか、そういうことはもちろん大事なのだけれども、神戸の市民の

人たちのそこですごく何か楽しんでいる姿を見ることが、観光客にとっての魅力だと思うんです。それはいろんなまちに行ってみると、やはりクリスマスマーケットに行ったり、そこで住んでる人がつくった料理を食べたりとか、そういうことに感動するので、もちろんそういった何か、目につくような施設も必要ですけども、何かその循環を考えると、例えば神戸のK I I T Oでは、「ちびっこうべ」っていうすごくおもしろいイベントをやってますし、みなとのもり公園の夜は、若い子たちが、すごくたくさんいるんです。すごく汗流して踊ったりとか、いい状態だなと思います。

東遊園地のアーバンピクニックとか、それから、土曜日にやってるファーマーズマーケットは、農家さんたちと市民の交流の場になっています。住みやすさとか、神戸らしさって何かっていうことを、もう少し整理していくのは、三ノ宮都心整備の 프로모ーション部門の仕事だと思うんですけども、何かそこを、もっと共有したいなと思った。そこを多分、突きつめていくと、この施設のあり方っていうことの何か、前提になるものが見つかるかもしれないです。

○岡田会長 ありがとうございます。時間が来てしまいました。1回目と比べまして多くの意見があったと感じております。

1つは本庁舎の建てかえについて、誰を対象とするのかを伺っておりますと、神戸市民を対象と皆様方からご意見を頂いたと思っております。

それとあと、どういうふうな機能を持たせるのかについては、たくさんのご意見を頂きました。これを整理して、方向性をお示しできるのではないかと思います。

それとまた、本庁舎の建替を考えるにあたって、三ノ宮のまちづくりの中でどういうふうな位置づけをするのか、これはとりわけ、機能と連動するのかなと思っておりますので、そういうようなところを皆さん方からご意見を頂いたということで、本日、これで終了させていただきます。

本日は、まことに、ありがとうございます。

○事務局 岡田会長、どうもありがとうございます。

本日は、皆様、どうもありがとうございました。